

齋藤隆夫 さとう 政治家。明治二年八月十八日但馬國生れ、昭和二十
四年十月七日歿（八七〇一八九）。明治二十七年東京専門學校校長行政
科卒。アメリカに渡り、エール大學生院に學び、歸朝後辯護士を職業。

四十一年衆議院議員（爾來當選十二回）。昭和十一年（二八事件直
後の特別議會、更に戰爭進行時の十五年）一度百の黨軍議會演説、
衆議院を除名せられた。十七年の黨贊選舉では、非推薦候補ながら兵
産部から最高位當選。戦後は日本進歩黨結成に参加、うち日本民主黨
に所屬。第一次吉田内閣、片山内閣の國務相。幼名波太郎。

著書に『帝國憲法論』（明治二十四年六月十四日自刊）、『憲國民
の覺醒』（明治四十四年十二月二十五日淡田書院）、『革新論及革新
運動之戒む』（昭和九年五月十七日日本評論社）、『回顧七十年』（昭
和二十二年刊。のち六十一年七月十日中央公論社「中公文庫」）等。
また、池田弘編著『齋藤代議士は何を演説したか』（昭和十五年三月
五日帝國新報社）、野依秀市著『齋藤問題の疑問解決』（昭和十五年
四月十五日秀文閣書房）、稻原忠賢著『ねづみの殿様―齋藤隆夫伝』（
昭和四十八年七月十五日兵庫・但馬文化協会）等がある。

